

# 第七 上部工事

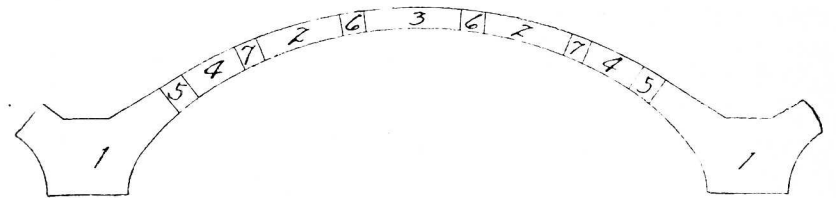
## (1) 混凝土工事

上部工事は基礎工事の進行に伴ひ施工せるものにして此内外濠に架すべき橋梁は之に隣接して東京市に於て架すべき常盤橋と徑間其他に就て協定を要すべきことあり未だ決定せざりしを以て之を除き其前後の工事に着手することとし其所要材料の内鐵筋材及「セメント」は基礎工事と同じく製鐵所及び淺野「セメント」會社より購入支給し其他材料の供給及施工を一括して指名入札に附し大正五年九月大倉組と請負を契約せり其後六年二月外濠橋は一徑間「メラン」式鐵筋混凝土拱橋となすことに決定せるが本橋は當時施工中の上部工事の中間に位置し且つ工事の種類も略同一なるを以て之を別途の請負に附するは不便なるのみならず尙不利益と認めたるを以て追加工事として大倉組に請負はしめ六年八月工事に着手せり

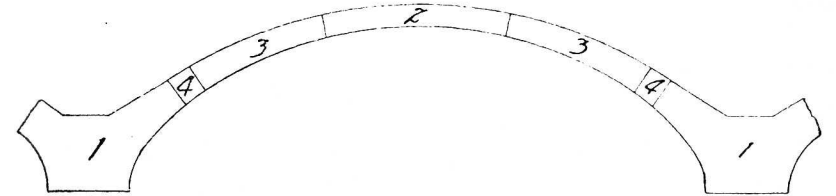
施工方法は各町橋に於て兩橋臺間或は橋臺と大拱脚間四徑間乃至六徑間となし連続して第十二圖の如き拱架を構成せり拱架は中央に於て規定の高さより四分高くし且つ各節材の接合は精確に切組み混凝土築造に際し規定の高さ以下に沈定せざることを期したれども尙安全の爲め施工前混凝土の全重量に等しき砂利を積載して其沈定の度を測定せしに些少の形蹟を認めたるに過ぎざりし而して拱架上に鐵筋材を組成せる後拱環混凝土を築造するに本拱の如き徑間三十二呎より小なるものなれば工程能力の許す限りは全拱環を一日に施工すること得策なるべしと雖とも其拱矢は徑間の約五分の一を有し左右圓弧の勾配急にして之を一期に打ち上ぐるること不可能なれば甲乙丙三圖に示す如く七區劃或は五區劃に分ち各塊の間隔を一呎三吋とし圖上に示す番號の順序に依り左右相對照して施工せり而して第二小柳町橋は甲圖に依り施工したれども其の區劃多きに過ぎ一回に築造する混凝土の量少く執業上不利益なりしを以て第一小柳町橋及黒門町橋は乙圖に依りたれども之の區分に依るときは(2)を築造したる後其凝結を待たされば(3)を築造するを得ざるの不便ありしを以て新石町橋以南は總て丙圖に依りて執業せり此等各區分塊の容積は徑間三十二呎幅二十九呎の拱に於て大略次の如し

第二十四圖

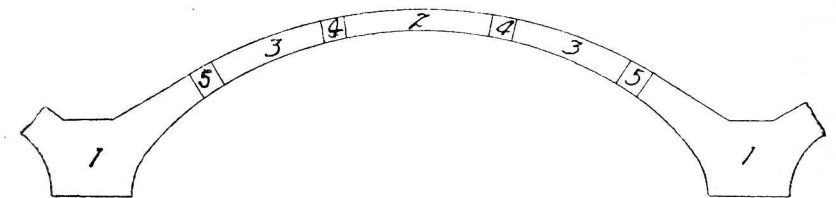
圖甲



圖乙



圖丙



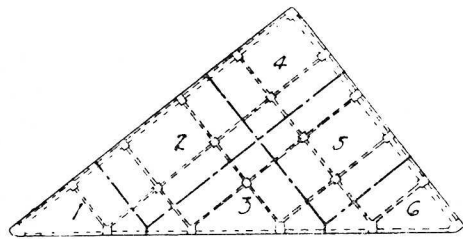
區分	混凝土容積(立坪)		
	甲	乙	丙
1	2.14	2.14	2.44
2	.85	1.80	1.42
3	1.02	1.55	1.24
4	.62	.29	.21
5	.25		.28
6	.22		
7	.29		
合計	9.76	9.76	9.76

以上何れも各單獨塊を築造したる後充分凝結せしむる爲め一週間以上経過の後各區劃の間隙を填充せり而して爾後四十日以上経過せしめ拱架を取扱へり拱架取外つしの際拱架の沈定する有無を検する爲め最初築造せしもの二三に就ては撓度計を装置して精密に觀測せしが沈定の形蹟すら認めさりし

拱架は徑間三十二呎以下の分總計六十四個に對し三十組を設備し順次に轉用せり其拱架一組に要せし材料は徑間三十二呎幅二十九呎のものに於ては木材尺 $\sphericalangle$ 約六十二本接合用鐵具千百五十封度を要せり

混凝土版は第二本銀町西今川町及第三鍛冶町橋に於ける連續桁をなせるものは橋脚或は橋柱を築造せる後型枠全部を構造し混凝土築造の順序は第二本銀町及西今川町橋に於ては各橋脚の中間に於て區分し三回或は四回に築造し第三鍛冶町橋に於ては圖に示す如く區別し番號の順序に依りて築造せり其區分塊の容積は大約左の如し

第二十五圖

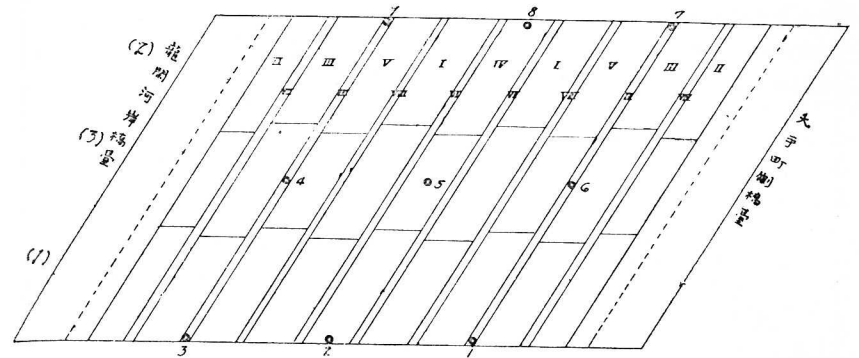
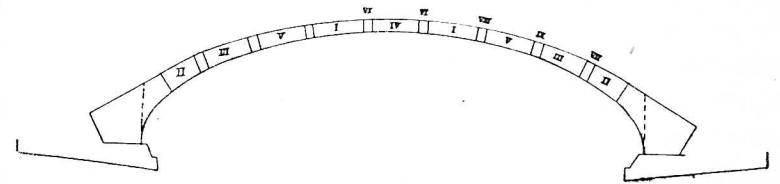


No1 5.24立坪	No2 7.4	No3 5.43
No4 6.64	No5 6.49	No6 4.72

第一第二鍛冶町橋の單桁をなせる分は五乃至七徑間を連續して型枠を構造し一徑間つゞ混凝土を築造せり而して何れも築造後四十日以上経過したる後型枠を取外づせり

外濠橋用拱架は第十七號圖に示す如く同橋は其橋下に舟航あるを以て中央に於て純幅員二十一尺の舟路を残し一列十八本つゞ八列の杭を打入し其内二列の上部には鐵製「ジャック」を備へ其他の上部には檣材の楔形を置き其上に廿一通の拱架を構造し表面には厚さ一寸八分乃至三寸の板を張り其上面をして正しく拱の内弧面をなさしむ拱架に使用せし材料は木材尺 $\sphericalangle$ 約千四百十本接合用鐵板及「ボルト」類五噸四分「ジャック」三十六基なり

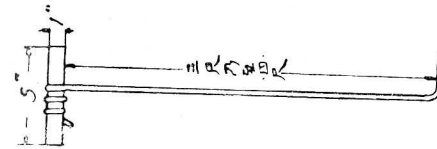
第二十六圖



鐵骨は深川扇橋鐵工所に於て規定の形狀に製作し一個の拱肋を五個に分割して現場に運搬し拱架上規定の位置に組建て其接合及び横繫材は現場に於て綴釘接合をなせり

拱及び拱臺の側面疊石、拱環の側面拱腹及塔の表面、高欄等は總て茨城縣稻田産花崗石を用ひ高欄を除く外總て混凝土表面に疊積せるものにして其石材の厚さは拱環にありては八寸及一尺二寸のものを交互に配置し其他の石材は六寸乃至一尺のものを何れも内部混凝土との結合を完全ならしむる爲め圖に示す如

第二十七圖



き繋ぎ鐵物を石材一個に付一個乃至二個の割合を以て兩石材間に嵌入し一端を混凝土中に挿入築造せり

拱築造の順序は兩側拱環石を混凝土築造に先ち拱架上精確の位置に配列し其据付けを終りたる後混凝土を築造せるものにして拱環の左右起拱部は橋臺と共に築造し中間部は拱架上荷重の對照と混凝土一日の築造能力とを考へ圖に示す如く縱横二十七區に分割し一縱區分に於て一日に左右相對せる二區分つゞ築造せり其各區分に於ける混凝土容積は大約次の如し

横區劃	縦 區 劃		
	(1)	(3)	(2)
I	4.83	5.18	4.83
II	5.70	4.91	5.70
III	5.47	5.88	5.47
IV	4.83	4.17	4.83
V	5.37	4.62	5.37
VI		2.31	
VII		3.43	
VIII		2.52	
IX		2.97	
起拱部		71.06	
合 計	左右全部にて 305.07(立坪)		

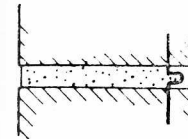
以上の區劃に従ひ 日に左右相對せる二ヶ所  
つゝ、築造せるを以て其數量は十立坪乃至十二立  
坪なり而して七年七月十九日着手し各區分は八  
月十五日終了し凝結せしむる爲め一週間經過し  
同月二十四より二十七日まで四日間に各塊の間  
隙を填充して全く終了せり  
拱架は中央に於て規定の位置より八分高く構  
造し混凝土築造中其沈定を觀測せんが爲めに拱  
架の頂點及び左右四分の一の點に三ヶ所つゝ三  
通り定木を定置し各區分劃の混凝土築造毎に觀  
測せり其詳細は別表に示すかすか如し、觀測點  
の番號は第125頁の圖に示すか如し

混凝土全部築造後各拱架の中央頂點に於て四分より六分八厘の沈定を見たるか豫定の量  
より少かりし而して東側の沈定は西側より少なきは東側は汽車線路に當り十二列の鐵拱架  
は其斷面積大なれば混凝土の重量を支持する強度大なるに依るならん

混凝土全部築造後七十日を經過し十一月五日拱架を緩めたる際拱の沈定如何を精密に觀  
測せしか些少も其形蹟を認めざりし

外濠橋及び各町橋の拱上部兩側に於ける擁壁は鐵筋混凝土にして其鐵筋の配置は第九號  
圖より第十一號圖に至る拱配筋圖に示す如くにして施工は拱環の凝固せるを待て順次に築

第二十八圖



造せり其西側の分は表面に煉瓦厚一枚の壁を作り東側は型枠を作  
りて鐵筋を配置し混凝土を築造し其上部に笠石を据付く、擁壁は  
各拱脚毎に切斷し約四分の間隔を存し土瀝青を填充し可伸接合を  
なさしむ而して温度の爲め土瀝青の溶解滲出するを防ぐ爲めに銅  
板を以て圖に示す如き形状のものを作り兩擁壁端の表面に近き所  
に挿入せり

拱背部及び橋臺擁壁等の内部は防水用として厚三分の土瀝青を敷き其上部に更に厚二寸  
の防水「モルタル」を敷き以て土瀝青の乾燥を防ぐ防水「モルタル」の調合は「セメント」一、  
砂四にして「セメント」には其重量の百分の一の明礬を加へ又之を練成する水には同しく百  
分の一の石鹼を加へたり

拱架沈定觀測表 (分を以て示す) (ー)は高上せるを示す

月 日	混凝土築 造個所	1	2	3	4	5	6	7	8	9
7. 19	I <sub>2</sub>				.7	2.0	.7			
21	II <sub>2</sub>				.7	2.0	.7			
22	III <sub>2</sub>				1.5	2.0	1.0			
23	IV <sub>2</sub>	— .3	— .5	— .2	.0	2.5	.5	— .5	— .8	— .5
24	V <sub>2</sub>	— .2	0	.5	2.1	3.5	.2	— .5	— .8	— .5
30	I <sub>1</sub>	1.3	2.5	2.0	1.2	3.2	1.5	— .5	— .5	— 1.2
31	II <sub>1</sub>	2.2	3.4	2.4	1.3	3.5	1.6	— .5	— .3	— 1.0
8. 3	III <sub>1</sub>	2.2	3.0	2.0	1.2	3.3	2.0	— 1.0	— .3	— 1.4
5	I <sub>2</sub>	2.2	3.5	2.5	2.0	3.8	2.3	— .1	.3	.5
7	II <sub>2</sub>	2.2	3.6	2.5	2.2	4.1	2.4	.2	1.5	.1
8	III <sub>2</sub>	2.3	3.6	2.5	2.5	4.0	2.6	.3	1.5	.2
13	IV <sub>1</sub> IV <sub>2</sub>	2.8	6.5	2.9	2.5	4.0	2.6	.5	3.1	.2
14	V <sub>2</sub>	3.0	6.5	2.9	2.5	4.5	2.6	1.5	3.4	.9
15	V <sub>1</sub>	4.0	6.6	3.5	2.5	4.5	2.6	1.5	3.5	1.0
24	VI	4.0	6.5	3.7	2.0	4.5	2.6	1.4	3.5	.8
25	VII	4.0	6.8	3.7	2.0	5.0	2.6	1.4	3.7	.8
26	VIII	4.0	6.8	3.7	2.0	5.0	2.6	1.4	3.7	.8
27	IX	4.0	6.8	3.7	2.0	5.0	2.6	1.4	3.7	.8
31		4.3	6.8	4.0	2.0	5.0	3.0	1.8	4.0	.8
9. 28		4.3	6.8	4.0	2.0	5.0	3.0	1.8	4.0	.8

(2) 上部工事要項及數量

上部工事に使用せる鐵筋材及び各町橋に於ける混凝土、石材、煉瓦工、「セメント」等の數量を掲ぐれば次の如し

種 目	延 長 (呎、但板は平方呎)					
	拱 環	拱 脚	外 濠 拱	スラブ及脚	擁壁及塔	計
丸鋼 徑 1"				4917		4917
$\frac{3}{8}$		336	4080	146290	5076	155782
$\frac{3}{4}$		6012	6300	3119	630	16061
$\frac{5}{8}$	220329	6738	9000	51902	11021	298890
$\frac{9}{16}$					335	385
$\frac{1}{2}$	83081	25698		72254	48185	229128
$\frac{7}{16}$	4836	67514		36106		108456
$\frac{3}{8}$				11059	810	11869
$\frac{5}{16}$				4392		4392
$\frac{1}{4}$				104391		104391
$\frac{3}{16}$	158868	25140		26976	96	211080
鋼線徑 B.W.G				700		700
No 0						
No 2				4498		4498
No 3				2900		2900
No 5				132684	2724	135408
隅鋼 $3\frac{1}{2} \times 3 \times \frac{1}{2}$			15824			15824
$3\frac{1}{2} \times 3 \times \frac{3}{8}$			12580			12580
$3 \times 2\frac{1}{2} \times \frac{1}{2}$			812			812
$2 \times 2 \times .3$			6654			6654
平鋼 $3 \times \frac{1}{2}$			806			806
$3 \times \frac{3}{8}$			2496			2496
$2\frac{1}{4} \times \frac{1}{4}$			13200			13200
板鋼 厚 $\frac{1}{2}$			1901□'			1901
$\frac{3}{8}$			3276□'			3276
$\frac{1}{4}$			450□'			450
合 計						

一呎に付重 量 (封度)	重 量 (噸)					
	拱 環	拱 脚	外 濠 拱	スラブ及脚	擁壁及塔	計
2.614				5.739		5.739
2.036		.305	3.709	132.992	4.615	141.621
1.504		4.038	4.231	2.095	.423	10.787
1.040	102.220	3.128	4.177	24.091	5.116	138.732
.852					.146	.146
.683	25.332	7.808		22.031	14.692	69.863
.538	1.163	16.224		8.677		26.064
.386				1.903	.139	2.042
.259				.508		.508
.170				7.913		7.913
.099	7.042	1.114		1.196	.005	9.357
.463				.145		.145
.225				.452		.452
.169				.219		.219
.131				7.785	.160	7.945
10.284			72.649			72.649
7.839			44.026			44.026
8.503			3.083			3.083
3.871			11.497			11.497
5.104			1.837			1.837
3.931			4.330			4.330
1.947			11.472			11.472
21.252			18.036			18.036
15.324			22.411			22.411
10.809			2.171			2.171
	135.757	32.617	203.679	215.746	25.296	613.095

橋名	鉄筋混泥土(立坪)				
	拱、スラブ	スラブ橋脚	擁壁	其他	合計
錢瓶町橋				.105	.105
大手町橋	133.791		39.881	1.415	175.087
外濠橋	305.031		48.447		353.478
龍閑河岸橋	19.472		7.612	.253	27.337
第一本銀町橋	30.937		14.441	.237	45.615
第二本銀町橋	19.474	13.997			33.471
西今川町橋	12.178	10.976			23.154
千代田町橋	78.293		28.371	1.062	107.726
新石町橋	44.770		13.632	.580	58.982
第一鍛冶町橋	114.940	111.704			226.644
第二鍛冶町橋	131.599	142.235			273.834
第三鍛冶町橋	38.079	18.226			56.305
黒門町橋	116.231		38.328	1.501	156.060
第一小柳町橋	111.361		37.639	1.402	150.402
第二小柳町橋	89.177		31.487	1.174	121.838
合計	1245.333	297.138	259.838	7.729	1810.038

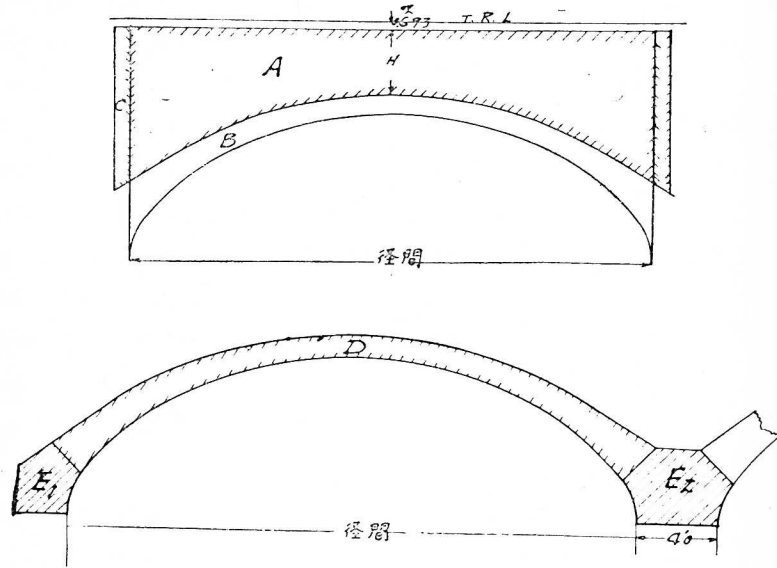
普通混泥土 橋臺拱脚	切石工 (切)	煉瓦工		防水塗積 (坪)	セメント (樽)
		面坪	立坪		
4.946	564.8		7.388	40.82	61
111.306	1958.4	97.167		479.75	2875
	9072.7			347.25	4031
61.087	586.4	26.369		109.89	802
45.483	1117.8	46.106		147.89	915
18.548	841.1	33.877		59.59	542
18.684	813.7	33.706		41.47	428
65.451	1805.9	90.301		330.84	1811
86.783	1684.2	96.629		213.87	1423
71.315	2236.9	174.150	6.273	372.30	3157
51.807	2430.7	227.815	6.457	426.12	3547
	290.5	33.007		109.03	647
77.159	2603.0	108.395		456.88	2474
69.955	2291.4	104.578	.054	435.21	2344
64.256	2088.3	92.237	.057	356.07	1966
746.780	30385.8	1164.337	20.229	3926.98	27023

上表に依り各種鉄筋混泥土立一坪に對する鉄筋材及「セメント」の數量は次の如し

種目	混泥土 數量 (立坪)	鉄筋材 (噸)	セメント (樽)	立一坪に付き		混泥土に 對する鉄 筋割合
				鉄筋材 (封度)	セメント (樽)	
拱環 32' 以下のもの	624.032	135.757	6488	487.3	10.4	.460%
拱脚	746.780	32.617	5584	97.8	7.5	.092
外濠拱橋	305.031	203.679	3174	1495.7	10.4	1.413
スラブ及脚	613.408	215.746	6377	787.8	10.4	.745
擁壁及塔	259.838	25.296	2701	218.1	10.4	.206

各種徑間の洪一個に對する主要部分の表面積及斷面積は次の如し表は總て平方呎を以て示す

第二十九圖



徑間	H	A	B	C	D	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>
20	5.667	137.906	27.683	6.460	27.066	7.851	
26	4.332	152.788	38.964	6.818	38.297	7.946	
31	2.925	144.636	53.326	7.372	52.471	13.242	18.484
32	2.718	144.662	55.028	7.363	54.157	13.367	18.509

従業人員 上部工事に従事せし職工人夫の總數は十四萬五千七百人にして其各工種に對する内譯は次表の如し、外濠橋は基礎工事に従事せしものを併算す

工種	職工名	員數	摘	要
外濠橋以外の各橋梁				
拱架	大工	4702	拱架64個所 一個所に付平均 { 平面積約1595坪 一坪に付平均	73.5
	手傳	1687		26.4
	鳶人足	896		14.0
スラブ型板	大工	2443	スラブ38個所 一箇所に付平均 { 平面積約868坪 一坪に付平均	64.3
	手傳	775		20.4
	鳶人足	476		12.5
椽板	大工	6639	面積約2650坪 一面坪平均	2.5
	手傳	1581		.6
鐵筋材組建	鍛冶工	10062	重量398.7噸 一噸に付平均	25.2
	手傳	265		.66
鐵筋混凝土	人夫	15455	容積 1456.56立坪 一立坪平均	10.6
普通混凝土	人夫	5425	746.78	7.3
混凝土工雜用	人夫	3275	2203.34	1.5
拱側面仕上	左官職	455	仕上面積約560坪 一坪平均	.81
	手傳	277		.5
切石工	石工	18755	石材拵及据付21313切一切に付平均	.88
	手傳	3851		.18
煉瓦工	職工	3390	煉瓦撰及拵 總數約576000個 { 1000個に付平均	5.9
	同	2832		4.9
	手傳	3174		5.5
アスハルト塗	職工	885	面坪3927坪 一面坪平均	.23
	手傳	860		.22
防水モルタル塗	職工	556	面坪3740坪	.15
	手傳	670		.18
測量、造形、足代	大工	4438	施工期間十七ヶ月 一日に付平均	8.7
	鳶人足	6070		11.9
其他雜用一式	人夫	7492		14.7
	小計	107386		

(3) 鐵 桁 工 事

工 種	職工名	員 數	摘 要
外 濠 橋			
棧橋及切	大 工	337	
	鳶人足	722	
	人 夫	1207	
根 堀	土方人夫	3534	土積1254立坪 一立坪平均 2.8
舊濠壘取崩	石 工	96	
	人 夫	877	
拱 架	木挽職	142	{拱架用木材約尺 <sup>1</sup> 1410本 一本に付平均 .1 {拱架平面坪290坪 一坪に付 .49
	大 工	2187	{拱架用木材約尺 <sup>1</sup> 1410本 尺 <sup>1</sup> 一本平均 1.55 {拱架平面坪290坪 一坪に付 7.54
	鳶人足	1859	{拱架用木材約尺 <sup>1</sup> 1410本 尺 <sup>1</sup> 一本平均 1.32 {拱架平面坪290坪 一坪に付 6.40
	杭打人夫	112	{杭數210本 一本に付平均 .53 {拱架平面坪290坪 一坪に付 .39
堰 板	大 工	1289	
	手 傳	657	
鐵筋材組建	鍛冶工	2264	鐵材 270.3噸 一噸に付平均 8.37
	人 夫	1382	” 5.11
鐵筋混凝土	人 夫	3933	容積 650.5立坪 一立坪に付平均 6.05
切石工	石 工	9757	石材拵及据付 9073切 一切に付平均 1.08
	手 傳	2019	石材運搬及据付手傳 ” .22
防水アスハルト塗	職 工	82	面坪 347.2坪 一面坪に付平均 .24
	手 傳	91	” .26
防水モルタル塗	職 工	54	面坪 344.7坪 ” .16
	手 傳	45	” .13
水 替	機關手	166	
	人 夫	127	
造り形其他雜工	大 工	1107	
	鳶人足	2076	
	人 夫	2199	
小 計		38321	
合 計		145707	

街路上及び龍閑川上に架せる橋梁鋼版桁は鋼材は全部八幡製鐵所より購入し其製作及び橋柱用壽鋼製造は併せて神戸川崎造船所の請負とし大正六年十二月より同造船所兵庫分工場に於て製作に着手し漸次竣工せる分より現場に回送し大正七年六月十日より組建に着手せり其組建及び現場鉸銜工事は東海工業株式會社の請負にして殆んど全橋梁に涉りて假構を構造し版桁製作の竣工に従ひ數ヶ所に於て同時に施工し得らるゝ如くせり而して製作工事は七年十月竣工し現場組建工事は八年一月十日全部竣工せり現場に於ける綴釘工は壓搾空氣鉸銜機を用ひ初め「セニホル」式空氣壓搾機壓力百「ポンド」壓搾空氣容槽廿立方呎のもの三臺を使用せるか器械に破損故障發出し修繕を重ねるも完全に使用し得らるゝ事少なく到底之のみに頼りては豫定の工程に進捗せざるべきを以て他の建設工事に使用の目的を以て新に購入せる大型空氣壓搾機を借入れ使用せり該機械の原動力は二百馬力電動機にして壓搾空氣容槽の大き二百五十立方呎なり之を千代田町拱橋の下に据付け之より六吋鐵管を拱上に布設し壓搾空氣を送り各橋梁礎に於て四分三吋鐵管を以て分岐し鉸銜鏈五個乃至八個を使用して作業せり鉸銜鏈一個一日の工程は綴釘徑八分の五吋なれば大約五百個同四分の三吋なれば約三百個なりし

鋼版桁總數は二十四橋四十六徑間其重量一〇四〇噸八八五にして其工場にて製作に要せし期間十一ヶ月現場組建七ヶ月間にして即ち平均一日に付製作は三噸二分組建は五噸なり綴釘數は工場打の分約十九萬三千三百個現場打約十三萬三千個にして平均一日に付工場打五百八十個現場打六百三十個なりし斯の如く平均工程の比較的少かりしは製作工事に於ては當時一般時局の影響を受け所要鐵材の供給不十分なりし爲め一時殆んど製作工事を中止せしめんとするに至れること又組建工事に於ては製作工事に供ひ多少遅延せると同時に既に記せし如く豫定の鉸銜用機械不十分なりし爲め新に大型機械を据付け使用せる等の支障ありたるが爲めなり

鐵桁「ペイント」塗工事は日本「ペイント」株式會社の請負にして鐵桁の組建竣工に従ひ順次に着手し八年二月全く終了せり

鋼桁橋の内常盤橋より鋼橋までの間は其西側に黒門橋より萬世橋までは東西兩側に幅員約三呎の木造歩行道を設く

鋼版桁各橋の要項は次表の如し

橋名	徑間數	總延長	版 桁 重 量 (封度)					橋 柱	
			本 桁	橫 梁 其 他	床 及 砂 利 止	人 道 遮 欄 排 水 管 等	鑄 鐵	鋼 材	
常盤橋一線	3	60'-0 1/4"	40615	15959	20755	3184	2319	13785	
龍閑橋一線	3	105- 0	32137	44998	13720	6521	2306	7213	
二線	3	105- 0	32137	44998	13720	2667	2306	7408	
本銀橋一線	1	51- 6 3/8	58690	47077	17703	4246	1802		
白旗橋一線	1	56- 5 3/16	40526	18521	9158	2620	951		
二線	1	56- 5 3/16	40381	18521	9158	365	951		
西今川橋一線	1	51- 6 3/8	37147	16892	8338	2418	934		
二線	1	51- 6 3/8	37147	16892	8338	325	934		
千代田橋一線	1	44- 7 3/4	25563	15962	6206	2156	986		
二線	1	45- 11 1/2	26909	16172	6348	252	986		
新石橋一線	3	100- 6 1/4	37358	36035	17099	4864	1091	9230	
二線	3	95- 8 1/2	35709	35666	16457	673	1091	9159	
上白壁橋一線	1	45- 3 1/2	29897	4238	9417	3295	857		
二三線	1	45- 3 1/2	60491	13638	17027	393	1780		
大通橋一線	3	136- 2 3/16	73214	58206	25550	6727	2509	8806	
二線	3	143- 1	95927	49432	16447	1493	2767	8476	
鍋橋一線	3	81- 0 7/16	37324	31285	11367	4073	1353	7827	
二線	3	76- 1 1/2	30352	27092	10420	434	1318	8238	
黒門橋一線	1	39- 0	16861	14236	5250	1782	968		
二線	1	39- 0	16861	14236	5250	1782	968		
小柳橋一線	1	16- 5 1/2	9553	5419	5847	1470	797		
萬世橋一線	3	159- 11	104116	78288	26462	7523	2751	7948	
二線	3	158- 11 1/2	102054	46087	19240	7217	2751	7690	
神田停車場乘降場	1	43-6	16577	6321					
合計			1036546	676171	299277	66480	35376	95780	

重量	計	重 量 (噸)			一線路 一呎に 付重量 (封度)	綫 釘 數			ペイント塗 面積(坪)	
		鋼	鑄鐵	鋼		工場打	現場打	鋼材一 噸に付 總面積	鋼材一 噸に付	
20115	116632	42.097	9.971	52.068	972	10005	6399	390	275	5.28
10058	116953	46.691	5.520	52.211	1114	11262	6321	377	210	4.14
10058	113294	45.058	5.520	50.578	1079	10801	5982	372	200	3.95
	129518	57.016	.805	57.821	1257	10224	6589	295	247	4.27
	71776	31.618	.425	32.043	1272	5310	4048	296	109	3.41
	69376	30.546	.425	30.971	1229	5043	3920	293	108	3.49
	65729	28.926	.417	29.343	1276	4853	3790	299	99	3.37
	63636	27.992	.417	28.409	1235	4601	3584	292	99	3.47
	50873	22.271	.440	22.711	1139	4560	3256	351	87	3.83
	49667	21.733	.440	22.173	1081	4336	2970	337	86	3.88
10687	116364	46.690	5.258	51.948	1158	10433	6737	368	204	3.93
10687	109442	43.600	5.258	48.858	1144	9680	6331	367	195	3.99
	47704	20.914	.382	21.296	1053	2957	3730	320	103	4.83
	93329	40.870	.795	41.665	1030	5040	6011	270	190	4.56
10058	185070	77.011	5.610	82.621	1359	17288	10194	357	310	3.75
10058	184600	76.686	5.725	82.411	1290	15680	10954	347	299	3.87
10058	103287	41.016	5.094	46.110	1275	8428	6146	355	164	3.56
10058	87912	34.168	5.078	39.246	1155	7228	4693	349	150	3.82
	39097	17.022	.432	17.454	1003	3831	2693	383	80	4.58
	39097	17.022	.432	17.454	1003	3831	2693	383	80	4.58
	23086	9.950	.356	10.306	1403	1942	1775	374	76	7.37
10058	237146	100.151	5.718	105.869	1483	18390	12954	313	415	3.92
10058	195097	81.379	5.718	87.097	1227	15885	11167	333	341	3.92
	22898	10.222		10.222	526	1682	102	174	102	10.00
121953	2331533	970.649	70.236	1040.885	1177	193290	133039	336	4229	4.06



各拱橋及橋臺の内錢瓶町より第一鍛冶町に至る間の西側、黒門町より万世橋に至る東西  
 兩側及萬世橋驛構内南側、紅梅河岸拱橋兩側笠石上には鐵造手摺高欄を設く其總延長は五  
 千六百三十九呎七ナリ

従業人員 鐵桁架設及高欄建設に従事せし職工人夫總數は壹萬六千五百二十四人に  
 して各工種に對する内課は次表の如し

工種	職工名	員數	摘	要
鐵桁架設	鍛冶工	5184	鐵桁組建及鉸銻 1040.9噸	一噸に付平均 4.98
	葦人足	5926	假構取建拂及鐵桁運搬	” 5.69
	銅工	389	榑製作并取付	
床板上錆止	ペイント職	124	平面積 675.8坪	一坪に付平均 .18
	職工	69	”	” .10
同アスハルト塗	手傳	180	”	” .27
	左官職	98	”	” .15
同防水モルタル塗	手傳	251	”	” .37
	ペイント職	2044	鐵桁重量 1040.9噸 表面積約 4229.坪	一噸に付平均 1.96 一坪に付平均 .48
歩道敷板	大工	439	歩道面積 77.2坪	一坪に付平均 5.69
橋柱沓石	石工	394	基礎沓石拵及据付326.6切	一切に付平均 1.21
	手傳	228	同石材運搬及手傳	” .7
高欄建設	鍛冶工	485	高欄建設延長 5639.7呎	一呎に付平均 .086
	手傳	240	”	” .042
	大工	27	”	”
	石工	180	高欄柱根穴彫明	” .032
	ペイント職	266	ペイント塗	” .047
合計		16524		

## 第八 停車場

停車場は神田停車場一箇所にして電車専用とし其位置は神田區鍛冶町にありて東京驛より六十二鎖四十六節萬世橋驛まで三十一鎖三十一節にして鍛冶町大通り及び新石町通りに其出入口を設け本屋其他附屬建物等は總て高架線下に設く乗降場は第一第二線間及び第三第四線間に設くる設計なれとも第一期工事として建造せるは第一第二線間の一箇所にして其長さ二百八十呎幅員廿四呎前後二箇所に階段を設け旅客は之に依りて昇降す停車場として設備せるものは鍛冶町側出入口に於ては本屋二十四坪二合附屬物置及便所十七坪八合人力車切符賣場及賣店二ヶ所自働電話室一ヶ所にして小手荷物は高架線下の通路を経て昇降機に依りて乗降場面に運搬す、新石町側に於ては本屋十二坪一合附屬物置及便所六坪一合賣店二ヶ所なり又乗降場には驛長派出所、乗客待合所合造一ヶ所を設く其建坪十坪五合なり

乗降場面に設備せる荷物用昇降機は一ヶ所にして其要項は左の如し

最大積載能力 一英噸 ケージの大きさ 5'×7' 11" 高 6' 昇降速度 毎分六十呎  
 昇降距離 二十二呎一 電動機 半密閉型七馬力半 二十五サイクル 二百ヴォルト  
 三相交流透導式

本屋及附屬屋とも總て木造にして兩出入口より階段までの通路は混凝土造にして表面は「アスハルト」舗道とし通路上部は鐵筋混凝土床硝子窓付明り取り家根を設け尙通路の兩側にある拱脚及「スラブ」の側面には白色煉瓦を貼付し通路の採光に便す、階段は附屬圖面に示す如く幅員十五呎にして鐵筋混凝土を以て構造し踏面は「ターピア」混凝土蹴込みは楓板を用ゆ乗降場床面も又鐵筋混凝土にして表面に「ターピア」混凝土を布設す乗降場の内上白壁町通りの上部に當る部分は鋼版桁を架設し其上部に波形鐵板を張り表面は他の部分と同一の構造をなす、乗降場上家は總延長327' 10" にして柱は鑄鐵製屋根は木造にして亜鉛鍍鐵板葺とす

乗降場には乗客用として水道栓一ヶ所を設置し其他通路或は床面洗滌用水栓四ヶ所事務所及便所内四ヶ所總計九ヶ所に水道栓を設置す、電燈は百ヴォルト二十「ワット」より百「ワット」までのもの總計百二十五個を點す

停車場工事の内荷物用昇降機製作及取付一切は櫻田製作所の請負にして本屋附屬屋、乗降場上家、待合室、床面通路、上部明り取り屋根、周圍境界板柵等の工事は一括して清水組の請負とし大正六年八月着手したるが拱橋工事等と關聯施工せるを以て比較的多數の日を要し大正七年十二月工事を終了せり